

かいぎめいしょう 会議名称	へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい 平成28年度 第3回杉並区地域自立支援協議会
にち じ 日 時	へいせい ねん がつ にち か 平成28年12月13日 (火) 13:30～16:00
ば しょ 場 所	かいえーびーかいぎしつ 分庁舎4階AB会議室
<p>しゅつせきいん ＜出席委員＞</p> <p>たかやまゆみこいん かいちょう、かねこ 金子めぐみ委員、きくちえいじいん 菊地英治委員、さいみょうひさえいん 西明久恵委員、ながのたつやいん 長野達也委員、まえきこけんいち 高山由美子委員(会長)、金子めぐみ委員、菊地英治委員、西明久恵委員、長野達也委員、前迫健一 いん おおわだこうへいいん たなかなおきいん つぐひとしいん すずきまさみちいん かとうあやえいん はるやまようこいん しもだ 委員、大和田耕平委員、田中直樹委員、継仁委員、鈴木正道委員、加藤恵愛委員、春山陽子委員、下田 かずのりいん しゅりみかさいん ふじたようじいん たなかつみこいん ながたなおこいん ながわようすけいん 一紀委員、修理美加沙委員、藤田洋二委員、田中澄子委員、永田直子委員、中川洋介委員、小笠原 けつせきいん かみさくあやこいん いがしらえみいん かしわぎしんじいん おがさわら いん 欠席委員：神作彩子委員、井頭恵美委員、柏木伸二委員、小笠原みのり委員</p> <p>かんじ ＜幹事＞</p> <p>ほけんふくしほしょうがいしやくか で ほゆうじ しょうがいしやくしえんかちょう りゅうまゆみ 保健福祉部障害者施策課：出保裕次、障害者生活支援課長：笠真由美 すぎなみふくしほじむしょたかいどじむしょたんとくちょう もろずみじんこ 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：諸角純子</p> <p>じむきょく ＜事務局＞</p> <p>しょうがいしやくしやくか いけだけいこ めぐるきみこ ささきなつえ きろく 障害者施策課：池田恵子、目黒紀美子、佐々木夏枝(記録) しょうがいしやくしやくしえんか いわさきりゅういち 障害者生活支援課：岩崎隆一</p>	
<p>しだい 【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 かいかい いんこうたい すまいるおぎくぼかとうし ながわし 開会 委員交代 すまいる萩窪加藤氏⇒中川氏 2 かいちょうあいさつ 会長挨拶 3 ほうこく いけんこうかん 報告および意見交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) かんじかい 幹事会より (2) ちいきいんこうそくしんがかい 地域移行促進部会より (3) そうだんしえんぶかい 相談支援部会より (4) しんぽじウムじっこういん シンポジウム実行委員より (5) さべつかいしょうしえんちいきかいぎ ほうこく 差別解消支援地域会議の報告 4 た く れんらくじこう その他 区からの連絡事項 5 へいかい 閉会 	
<p>はいふしりょう 【配布資料】</p> <p>しりょう かんじかい ほうこく ○資料1 幹事会からの報告</p> <p>しりょう じっしゅ あん ○資料2 シンポジウム実施(案)</p> <p>しりょう ○資料3-1 さべつかいしょうしえんちいきかいぎいんめいぼ 差別解消支援地域会議委員名簿</p> <p>しりょう ○資料3-2 さべつかいしょうしえんちいき かいぎ がいようしりょう 差別解消支援地域支援会議の概要資料</p> <p>しりょう ○資料3-3 そうだんじれいしりょう 相談事例資料</p> <p>しりょう ○資料3-4 だいいっかいさべつかいしょうちいきしえんかいぎぎ じりょうし とうじつせきじょうはいふ 第1回差別解消地域支援会議議事要旨(当日席上配布)</p>	

○資料4 相談支援部会活動報告（当日席上配布）

【内容】

1. 開会（司会目黒）
2. 会長挨拶
3. 報告及び議題

（1）幹事会より

※資料1を基に事務局から説明。

地域移行促進部会：医療に関する課題について継続して議論。

相談支援部会：ワーキンググループは4グループで活動中。リーダー会を開催し、今後の方向性について各グループから意見を出してもらいたい。

差別解消地域支援会議、シンポジウムについて（詳細は3（4）（5）で説明）。

すまいるについて：4年経過し、明確な地域性はみえないところもあるが、それぞれのすまいるの特色は出てきている。支援の狭間にある人、まだ障害のない人にも関わっている。相談の中核を担うすまいるの機能を果たすためにはどうしていけばいいか、今後もすまいるについては報告や検討を継続。

会長：前回、意見を言えなかった人もいると思うので本日ぜひ意見があればいただきたい。

【すまいるについての意見】

・制度の切り替え、狭間にあるケース等利用者もいるが、意外に認知度が低い。特に施設の人や施設職員が知らないのではないかな。サービス等利用計画が切れた人、サービス利用のない人等を相談支援員がすまいるへつなぎ、身近な存在になっていくとよいと思う。

・相談ごとであれば、最初にすまいるを利用することが多い。住所により担当のすまいるが決まっているが、すまいるのカラーによっては合わないことがある。対応の幅を広げてほしい。

【すまいるから】

・もっと早い時期からすまいるをテーマに取り上げてもらえるとうれしかった。利用者との意見交換を年1～2回実施している。家族や支援者との意見交換があってもよいのではと思っている。

・すまいるの通信を1400部出してPR。特定相談支援事業所と勘違いされることもある。

・特定の相談支援事業所からはよく紹介がある。地域での支援のネットワークを強化していきたい。

・管轄はあるが、オープンスペースなど誰でも使えるものもある。

・すまいるの認知度を高め、顔が見える関係を大切にしていきたい。

引き続き、すまいるについて協議会で議論していく。

（2）地域移行促進部会について

第2回（9月27日）を開催。地域で健康に暮らすための医療面の課題について検討。障害によりテーマや優先度が違うので、障害別に事例報告を実施。

精神障害：医療不可欠でチームの枠があり生活が維持されているケース

知的障害：高齢化が問題となっているケース

身体障害：家族で介護しており、予防や重症化を防ぐことが重要なケース

支援者側の経験の積み重ねが大切。医療系の訪問必要。

【質疑応答、意見交換】

・グループホーム利用者で訪問看護や往診の利用者がどれ位いるのか？必要な人が使えていないのではないかと。⇒医療へのアクセスは世話人が連れていくことが多い。実態は把握できていない。数を上げていくことも必要。

・医療や介護保険制度について職員が知識を深めていく必要がある。

・高齢化すると訪問が必要な場合も出てくる。また骨折後、なかなか病院に通えない場合、訪問リハビリが受けられるようになったケースもあり。

・27年1月からグループホームネットワーク事業を実施。保健師、看護師、歯科衛生士、栄養士など要望があれば巡回し世話人にアドバイス。実態把握をしながら次期の方向性を検討。

(3) 相談支援部会について

10月28日に幹事会を実施。4つのグループで議論を展開中。

Bグループ（重心について）：4期の終わりから議論、幅広い課題がある。医ケアが必要なケースが増える中、その担い手の確保が難しい。実態の詳細がみえていないこともある。当事者の困りごとを共有したいと聞き取りを実施予定。

Cグループ（高齢期の課題）：3回検討。議論や事例検討の中で、介護保険のケアマネとの視点や立場の違いがあった。

Dグループ（就労について）：6回検討。ワークサポートの雇用支援ネットワーク会議に参加し、定着支援について意見交換したり、ワークセミナーにも参加。定着支援の薄さが課題として出ているが相談支援員では意見が出づらい。検討メンバーの構成や活動の在り方をどうしていくか検討必要。

Eグループ（児童の課題）：施設見学を実施。見学前に事前アンケートにより事業所の理念など確認。事例検討で支援について意見交換しまとめを行なう予定。医療と学校の連携は課題。

B、Dグループは他分野の意見も必要。第2回全体会（2月）に向け、各グループでまとめを行なう。相談支援部会のメンバーが増えている中、来年度の活動をどうしていくか検討していく。

【質疑応答、意見交換】

・学校に行けない人はどうなるのか⇒通学から訪問に切り替えることもある。通学手段の確保の問題、集団活動が難しい場合などもある。

・永福学園小学部低学年の7割に医ケアが必要。社会に出ていく資源がない。東京都の課題でもある。吸引があるとスクールバスに乗れない。自家用車で送り迎えをしているケースもある。教育を受けられない問題は区と連携し教育を保証していく必要がある。本会にもこの問題を挙げていきたい。

・タクシー券だけでは足りない。スクールバスの規定を変えたり、移動支援が使えようになるとよいのではないかと。

(4) シンポジウム実行委員会より（資料2参照）

(5) 差別解消支援地域会議について（資料3-1から3-4参照）

【不当な差別を受けた相談事例以外の事例について】

・知的障害と思われ、すべてひらがなで説明を受けた。

・コンビニで予約が必要とあり、視覚障害なのに自分で予約書を書くよう言われた。

【第1回会議の感想・意見について】

・昔と比べ、障害者に対応してくれるようになったが理解が不足していることもあり、外出することを続けると差別解消にはつながらない。

・会議が今後どう動いていくか気になる。自分にはできることは何か、偏見をどうクリアしていくか。
・どんな障害を持っているかわからないため、対応には注意が必要。会議をとおして差別に気づき区民へ啓発できるよう勉強していきたい。

・メンバーに期待されているもの、事例をふまえて具体的に何をめざすのかわかりにくい。

・議論がどこにむかっていくのか、事例検討の仕方に工夫が必要、議論の仕方も難しい。

・会議体の詳細がみえない、任期やメンバーの責務など検討が必要。

・区民の生活にどう結び付けられるのか

・勉強にはなったが、どういう立場で発言したらよいかかわからなかった。

・学び合い、理解し合うことが必要。

・対立ばかりでなく、事例をとおし前向きに議論ができるとよい。

・自分が得たい配慮は他人にはわかりにくいいため、どう伝えていくか。

・制度自体を知らない人もいる。いろんな形で事例をつみあげ、施策に反映できていくとよい。

・判断力が低い人の権利を守る事業をしている。必要の人に届かないもどかしさもある。事例を積み上げ、地域の方への理解を深める方法以外の仕組みを考えたい。

・商店街の参加もあり。興味のない方が少しずつ参加し、情報を得られるとよい。

・対立ではなく、共存することを大事にすればいろいろな民間事業所も参加しやすくなる。

・心のバリアフリーができていないと感じる。研修が必要。

・親切のつもりが迷惑と感じられることもある。言い合える関係が必要。

・条例制定をみすえた議論をしてほしい。

・民間団体との議論や傍聴も認めるなどオープンに進めていくことも必要。

・対応要領ので各事業所間の共有も大切。

・資料を配ってそのままになってしまっている。いい事例を共有できていくとよいと思う。

・事例を分析し発信していく

・自立支援協議会が会議を全面的にバックアップしていく。地域支援会議により地域が変わることが大切、他部署とどうリンクしていくか、支援者も理解して地域の中で活動を展開していけるよう話し合える場があるとよい。

・進め方もふくめ、誰が長かもきまっていない。スタートは協議会のもとで作られているが今後どうしていくか。たたき台をつくらないと進まないのではないか。

【区より】

・交通機関等民間事業所の参加準備ができなかった。

・皆様からご意見をいただき、会議を進めていきたい。

・次回は2~3月、事例を持ち寄ることとする。本日出された意見を管理係事務局にも伝えていく。

5. 区からの連絡事項

計画作成95.2%達成

今後の予定、シンポジウム1月17日、第4回本会は29年3月第3~4週を検討。

6. 閉会

